

発行

足立区民生・児童委員協議会
 会長 中田 貢弘
 編集 広報部会
 発行日 2011年11月1日
 〒120-8510
 足立区中央本町1-17-1
 TEL 03-3880-5111



亀田小4年 岡野亜美 作「自転車に乗って川原へ！」

目次

全員研修会	2
アンケート報告	
研究部会会長紹介	3
アンケート報告	
つながる社会をめざして	4
子育て応援団	5
こんなに便利なA-メール	6
熱中症予防啓発活動	7
編集後記	8



「誇りの持てる足立」の実現へ 足立区長 近藤 やよい

民生・児童委員の皆様には、日頃から地域福祉の向上ため、隣人愛の精神で多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、3月11日に発生した東日本大震災では、区内でも帰宅困難者など様々な問題が発生しました。この震災により混乱していた状況であっても、民生・児童委員の皆様は、計画停電の周知のための訪問を始め、自らの判断で単身高齢者や災害時要援護者の安否確認活動等を行ってくださったと伺っております。まさに「つねに地域の実情を把握する」という民生委員信条に沿った活動と、改めて感謝と敬意を表します。

この震災により、私たちは地域の絆や人と人の係わり合いの大切さについて、改めて認識することになりました。足立区内では、世帯主が65歳以上の場合、その約半分が単身世帯であるとの調査結果が出るなど、急速な高齢化とともに、孤独化も進んでいます。

そこで、特にこうした一人暮らしの高齢者や相談相手のいない子育て中の方など、支えを必要とする方々のために、地域の絆を結び直し、区民の皆様が生きがいと誇りを持てる地域の基盤づくりを進めていかなければなりません。そのため区では、平成23年度から「地域のちから推進部」を創設いたしました。

今後は「絆の結び直し」をテーマに、高齢者等を支える諸団体との連携強化、地域を支える新たな人材の育成・活躍の場の提供、地域とつながりのない若者の実態把握といった3つの柱に着手し、新たな絆で地域力を高め、「誇りの持てる足立」の実現に努めてまいります。

民生・児童委員の皆様におかれましても、地域で活動されている実績を生かされまして今後ともご支援をいただけますよう心からお願い申し上げます。

結びに、足立区民生・児童委員協議会のますますのご発展と委員の皆様のご多幸を心から祈念いたします。

緑滴る紫陽花色の季節に、大勢のご来賓をお迎えして足立区 544 名の民生・児童委員が一堂に会する全員研修会が行われました。

第1部 オープニングは「足立シティオーケストラ」と「のこぎりキング」こと民生・児童委員でもある下田尚保氏とのコラボレーション。情感豊かな音色に会場が満たされ、安らぎに包まれていきました。

飯塚第五合同会長の司会で、まず、全員で、東日本大震災で亡くなられた民生・児童委員を含む方々への黙祷から始まり、区歌「わがまち足立」の斉唱、山本第六合同会長による信条朗読、宮崎会長職務代理の開会の挨拶と続き「今こそ心のつながりが大切である」という中田連合会長による主催者挨拶がありました。来賓を代表して近藤足立区長、たきがみ足立区議会副議長、福田東京都民生児童委員連合会会長、金森東京都地域福祉推進課長より、震災時の委員の対応につ



て触れるなど、心温まるご挨拶をいただきました。

第2部は、柳川第一合同会長の司会のもと、萩森義男西新井消防署予防課長による講演「被災現場から見た地域のちから」



がありました。いち早く現場に駆けつけ、救助・消火活動を遂行した頼もしい隊員達の活動報告は「助け合い」の本来あるべき姿を浮き彫りにし、大切さを実感させられるものでした。

続いて、前港区民生・児童委員協議会会長で臨済宗多聞山天現寺住職でもある柴山義光氏による特別講演「禅の心～地域の絆について～」がありました。宗教者としての観点から、この世の全てのもののつながりを表わす「縁」についての深いお話があり、坐禅の姿勢から、まず息を吐き、心を無にしてリセットするコツを教えていただきました。

最後に民生委員の歌「花咲く郷土」を斉唱し、吉田第二合同会長の挨拶で会を閉じました。震災後ますます必要性を増す「地域の絆」ネットワークをより一層強いものにするため皆様のご協力をお願いいたします。
(広報／竹の塚地区 小島千恵子 記)



「さくら」アンケート報告 6/17 全員研修会時実施

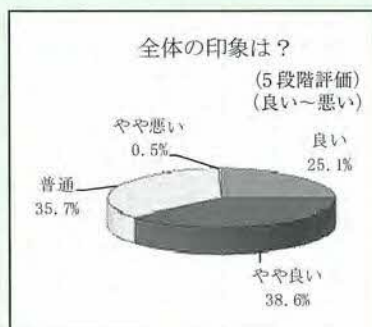
たくさんのご意見、ご感想並びに励ましをいただき、ありがとうございました。

全体的な印象としては、発行回数を重ねるたびに紙面が見やすく、内容が充実してきているとの評価で、

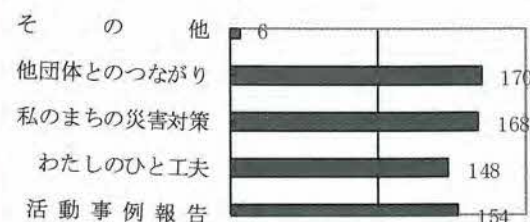
個々の活動の参考にさせていただいています。

寄せられたご意見の一部を紹介するとともに、今後の紙面づくりに反映させていただきます。ご協力ありがとうございました。

配付枚数：900
回答数：442
回答率：49.1%



取り上げてほしい話題は何ですか？



研究部会新会長の紹介

子育て支援部会

部会テーマ『子育て支援の必要性を知る』



柘孝子 部会長

子育て支援部会って何するの……？

0歳児から就学児までのお子さんの見守り、子育てのための情報交換、子どもを育てる義務について考える場、活動は様々あります。核家族化・少子化といながらも、幼稚園・保育園が不足し、待機児童が460名もいます。育児放棄、虐待等は極端な例ですが、夫

婦共稼ぎ、マンション住いで地域との関わりが希薄になり、子育てへの不安から、逆にネットなどでの情報過多等、子どもに対する親の愛情のかけ方が、世の中の変化と共に変わっていくように思えます。そうしたことをふまえて、子どもたちが伸び伸びと育てられるような環境づくりをしていきたいと思っています。

待機児童を減らすためにも、幼保保育の概要を勉強していきたいと思っています。

児童福祉研究部会

部会テーマ『こどもの心の問題を考える』



高橋八郎 部会長

今期改選で、児童福祉研究部会の部会長に選任されました。少子高齢化が進み、家族や親の役割、価値観が変わるとともに、学校の様子もずいぶん変わってきてしまったと感じています。また、このたびの東日本大震災の影響もあり、放射能への恐怖や毎日のようにマスコミで報道されていたショッキングな映像を目の当たりにし、子ども達の心の「揺ら

ぎ」は計り知れないものがあると心を痛めています。

そこで、児童福祉研究部会では、子ども達の「こころ」に着目をし、子どものストレスや病気にどのように向き合っていくか、3年間で学んでいきたいと思っています。具体的には、不登校、いじめ、非行、災害時の危機的状況などにまつわる子どもからのサインや、親とのかかわり方、活用できる足立区の仕組みなどを知り、部会で学んだ成果を地区委員に還元できるようにしたいと思っています。

障がい者部会

部会テーマ『まずは障がいを理解することから』



中村幸雄 部会長

部会の最初のステップは「障がいをお持ちの方やその家族の理解を深める」ことです。ひとくちに「障がい」と言っても「身体障がい（視覚・聴覚・肢体不自由・内部障がい）」「知覚障がい」「精神障がい（高次機能障がい・発達障がい）」など、様々な種類があります。

これから、このような様々な「障がい」の特性やニーズについて理解を深めることから始め「障がい」をお持ちの方に対する情報提供や支援、生活のうえの基盤整備など、地域の特性を活かしながら取り組んでいきたいと思っています。本人やご家族のお気持ちを考えると、なかなか対応が難しいこともあるかと思いますが「障がい」をお持ちの方の社会参加の手助けができるように学びを深めていきたいと思っています。

「さくら」アンケート報告

【その他の意見】

- 新任民生・児童委員のために、民生・児童委員の基本姿勢を書いていただきたい。
- 地域とのつながりについて取りあげてほしい。
- 部会員の方々の話をたくさん掲載すればよい。
- 民生・児童委員が地域でどのような活動をしているか読んでみたい。
- 委員それぞれの活動の中で困ったことや悩みなどを載せたい。
- 民生委員の活動がもっと理解してもらえる誌面にしたい。

【参考】紙質についての質問

紙質については、数種類の用紙で印刷したコストを比較しても発行部数（3,000部）に対し大きなコスト削減にはつながりませんでした。

また、一方でカラー印刷への要望等、品質向上へのご意見もあるため現状維持という判断をいたしております。

（広報部会 記）

民生委員制度創設90周年記念事業スローガン

広げよう 地域に根ざした 思いやり

つながる社会をめざして（無縁死からの脱却）第3回 身寄りのない高齢者への取り組み

介護保険制度体制の整備に伴って、独居高齢者や高齢者夫妻にとっての新しいニーズが明らかになってきました。

その主なものは、①身体機能や判断能力が低下した状態で福祉サービスや行政サービスを利用しようとする場合の手続きや契約の支援、②病院や福祉施設利用時の保証人に代わる支援、③終末期から死亡、葬儀、



梅島第一小4年 宇田川侑香 作

埋葬という生から死に至る一貫した支援などです。これらの支援は、これまで家族や親族によって担われてきましたが、近年の家族変化の中には、特に身寄りのない高齢者にとって、自分の

老後から終末期にかけて安心できる人生設計を立てることが困難な現状にあります。

足立区社会福祉協議会の権利擁護センターあだちでは、高齢者自らが予想される将来の困難な状況に対処するための準備をお手伝いする「高齢者あんしん生活支援事業」を始めています。この事業は、区内に支援してくれる親族がなく、ひとり暮らしをしている65歳以上の高齢者を対象とし、一般社会サービスや福祉サービスを利用するうえでの多様な困難に対して、長期的で包括的な相談及び支援を提供しています。サービスの内容は、①定期的な訪問や電話による生活状況の確認、②福祉サービスの利用支援、③日常の金銭管理支援、④入院・入所時の保証人に準じた支援などです。

今後も権利擁護センターあだちは、身寄りのない高齢者が安心して自立した生活が送れるよう、高齢期から死後対応に至る一連の支援サービスの充実を図っていきます。

（足立区社会福祉協議会 アルマルカウイ恵子 記）

足立の就労支援への取り組み 第一回 発達障がい ウィズユー

興野の住宅街の中に赤い入口のパン屋さんがあります。社会福祉法人トポスの会の運営する就労支援施設ウィズユーです。

この施設は発達障がい者・児のために、一昨年4月、地域の人たちの理解と協力によって、この地にオープンしました。発達障がい者は、他の障がいを持つ人に比べ、支援が遅れてきました。平成16年「発達障害者支援法」が成立、やっと手が差し伸べられたばかりです。

39名の利用者が、11名の優秀なスタッフのもとパンや焼き菓子の製造販売、また3、4階の作業室では名刺作り等の軽作業も行っています。将来、社会につながるために、そして、働く喜びを得るために一生懸命頑張っています。私は、フルセックという人気の焼き菓子をいただきました。とてもおいしかったです。近所においでの際には、是非立ち寄って、お買い求めください。

次号に施設長の平雅夫さんに発達障がいと就労支援について書いていただきます。

ウィズユー 足立区興野2-18-12
03-5837-4830（代）

<http://www.with-you.me/business/index.html>
（広報／9地区 秋本雅信 記）



弥生小3年 高木智咲 作

街かど福祉 その5 美容室

今も昔も、愛されている近所の美容室さんにお話を伺いました。お客様は若い人から高齢者まで、中には90歳というご高齢の方もいるそうです。美容室さんの計らいで、待ち時間にコーヒーを飲みながらお喋りをしたり、折り紙を折ったり、つかの間の憩いの場となっています。

依頼されれば足の不自由な方やご高齢の方には、車で送り迎えすることもあります。また、必要とされれ

ば出向いて髪をカットしに行くこともあるそうです。まさに「髪結いの乱れ髪」を地で行くような美容師さんです。

「いくつになっても、美しくありたいと思う女性の気持ちに、少しでも役立ち喜んでいただけるよう、これからも地域の方々と関わっていききたい」ということでした。

（広報／14地区 阿部美代子 記）

足立区こども家庭支援センターの養育支援事業である「ほっとほーむ事業」は、車にたとえるなら省エネタイプの機能型小型車です。

理由の第一は、小回りが利くことです。「地域の中で支援を必要とする家庭にすぐに行動する」ができる形態をとっています。そのためには、業務を実施しているこども家庭支援センターに登録している協力家庭（個人の資質や活動歴重視）を区内くまなく配置する必要があります。平成14年度のこども家庭支援センター開設の年、わずか10名ほどの協力家庭でスタートし、平成23年度3月現在86名となりました。あと少し西の地域で増員する必要があります。



島根小3年 倉持涼平 作

第二は、多様性・多機能であることです。こども家庭支援センターが相談受

理した要支援家庭から虐待のハイリスク家庭までを対象とし、その家庭に見合った支援を展開しています。支援内容は、家事、家庭環境への支援、通所や登園などの寄り添い支援、子どもの学習、公園で児童と遊ぶ支援などもあります。支援する場所は、利用者宅か協力家庭宅で行います。

第三に、利用料金は有料ですが、生活保護世帯や区長が必要と認める家庭は、一回300円という安価な価格で対応しています。しかも時間制限なし、支援内容による費用負担の違いなしとなっています。

概略は以上ですが、最後に、最大のメリットをあげれば、子育て支援を通じて地域づくりに貢献していることです。区内に点在する協力家庭と子育て中の親子とを線で結んでいきます。この事業を利用することで、利用者と支援者の人間関係が形成され、親子が困ったときに自分で協力家庭に連絡したり、時々相談にのってもらったりする関係が生まれています。

地域の教育力が衰退した現代社会において、「ほっとほーむ事業」を通して、少しでも育ち合い、育て合いの絆が結ばれていくことを願っています。

（足立区こども家庭支援センター 記）

さくらニュース 標語発表と音楽鑑賞会

6月20日、西新井文化ホールにおいて（主催・青少年対策第10地区委員会と第4ブロック小学校）亀田小・梅島小・梅島第一小・梅島第二小・島根小・関原小・栗原小、7校の代表者による明るい町づくり健全育成の標語発表と警視庁音楽隊の音楽鑑賞会があり



ました。これは毎年5年生を対象に行っていて、これから最上級生となる自覚を持ち、下級生のお手本になってもらうことを願って行っているとのこと。例年2月に行われていますが、会場の改修工事のため、今年は6月になりました。

西新井警察署長からは

- ・自分達の町を明るくしましょう。
- ・青少年の健全育成に心がけましょう。

とのお話がありました。

標語発表では、各校代表者が一人ずつ大きな声で発表し、発表前の緊張と発表後のホッとした表情がとてもほほえましくかわいらしく感じられました。

最後に子ども達が良く知っている曲の演奏があり、いっしょに口ずさんだり、体でリズムを取ったり、目を輝かせて聞いていました。

（広報/7地区 井上みよ子 記）



さくらバックナンバー（創刊号～）が区役所のホームページから見られます。区役所トップページから検索で「さくら」と入力するとさくらPDFが見られます。
URLは <http://www.city.adachi.tokyo.jp/007/d03800035.html>
是非ご覧になってください。

広報部会

こんなに便利な A-メール

区政情報や子どもの安心情報など、足立区についての様々な情報を、あらかじめ登録された携帯電話やパソコンのメールアドレス宛にお送りする制度です。(平成 23 年 6 月現在、登録者は約 4 万人)

東日本大震災後には、避難所情報や計画停電予定など、災害時の緊急情報を配信しております。

※情報料は無料ですが、通信料(パケット料金など)は利用者負担となります。

配信ジャンル一覧

- 災害に関する情報
- 防犯・防火情報
 - 区内で起こった犯罪の情報や悪質商法被害の情報など
- 子どもの安心情報
 - 子どもの安全を守るための、不審者情報など

○区長のひとりごと

「はい、区長です」に掲載している、区長が日ごろの公務で感じたことなど

○その他

登録方法

○空メールを送信して登録

下記のメールアドレスに空メール(本文に何も書かずに送るメール)を送信し、送られてきたメールに表示された URL にアクセスし、登録ページにお進みください。adachi@sg-m.jp

○二次元コードの読み取りができる

携帯電話をお持ちの方は、右記のバーコードよりアクセスしてください。



(足立区 記)

ご存じですか 変わりつつある区立保育園

足立区では、平成 16 年度から区立保育園の民営化を進めています。平成 23 年 4 月までに 17 園を民営化しました。区立保育園の民営化は、民間活力を積極的に導入して保育サービスの充実を図り、子育てしやすい環境を整備していくために推進しているものです。

女性が就業する割合が高くなるに従い、保育需要も高まり、かつ多様化してきました。例えば、朝夕の延長保育、産休明け保育、年末保育などの特別保育の要望が挙げられます。足立区では、日舎ライナー、つくばエクスプレスの開業で、女性の社会進出が促されることが考えられ、こうした特別保育の需要も高まってくると予想されます。区としては、効率的に保育サービスの充実を図ることで需要に对应していかなければいけません。そのためには民間の力を活用することが大切であると考えています。

民間活力の活用は、民間事業者の柔軟な発想が保育サービスの充実に活かされるだけでなく、事業者間の

良好な競争関係が保育の幅を広げてくれるということも期待できます。

さらに、民間事業者に任せることで新たな雇用が生

まれるなど、地域経済の活性化にも繋がります。さらに、区の財政面でもメリットがあり、節約できた財源を認証保育所の誘致など、待機児童解消に向けた取り組みに活用できることになります。

区は、保育サービスの充実に積極的に取り組み、子育てしやすい環境づくりに取り組んでいます。

(保育課長 土屋亘弘 記)



千寿第五小 4 年 廣野春佳 作

ぶらり足立 佐野いこいの森



足立区の東端を流れる中川の西側に「佐野いこいの森」があります。文禄 2 年(1593 年)この地に新田を開いた佐野新蔵胤信(たねのぶ)の子孫代々が名主屋敷として居

住した屋敷あとです。敷地面積 7,481㎡で「かまえ堀」に囲まれた屋敷林が「佐野いこいの森」です。

この森は昭和 49 年 4 月 1 日に区の保存樹林第 1 号に指定され、スダジイ、ケヤキ、マテバシイなど約 30 種(本数: 約 500 本)の樹木や、さまざまな野鳥も見られる生態系上貴重な森です。ウォーキングにも最適ですので是非お越しください。

(広報/18 地区 鶴田晴久 記)

(広報/佐野地区 木内信雄 写真)

*開園日時等 水曜日 日曜日 (入場無料)

2 月~10 月 午前 9 時~午後 5 時

11 月~1 月 午前 10 時~午後 4 時

交通 亀有駅北口⇄八潮駅南口

東武バス有 64 系統 佐野センター前下車 徒歩 5 分



私たちの熱中症予防の啓発活動 報告

昨年は、全国で約5万人の方々が熱中症で救急搬送されました。今夏も猛暑が続くうえ、電気の供給不足を想定し、足立区より民生・児童委員に、介護を受けていない高齢者への、熱中症予防の訪問の依頼がありました。

多い方で、30件もの見守りに行かれたと聞きました。件数の多い少ないではなく、暑い中、本当にご苦勞様でした。私も、訪問先で「暑い中、ありがとうございます」と声を掛けていただいたときには、ホッといたしました。

「喉が乾いていないと思っても、定期的に水を飲んでくださいね」と話すと、「私は水を飲んではいけない病気のよ」とおっしゃる方もおられました。

「エアコンを付ける費用がないんです。来年こそはと思っているんですけど……」

「マンションが建って、風通しが悪くなったんだ」

この見守りで、様々な声を聞きました。ある民生・児童委員は、熱中症予防に限らず、普段から地域の方々を訪ねていくことが大事だとおっしゃっておられました。

(広報/東栗原地区 北村信也 記)



千寿第五小5年 長尾杏里 作

大震災を考える シリーズ1 “脱あたりまえ”

東日本大震災、原発事故が発生して以来、国として、エネルギー問題が一つの課題となっております。私たちも、昨年、民生・児童委員の宿泊研修視察で、東海村の原子力発電所を見学しました。そして、その技術力・安心性を見聞して、クリーンで安全な、これからのエネルギーの中心になると思いました。

自然災害が起こる度、電気・水道・ガスというライフラインの復旧は、その名の通り“いのち”を繋ぐ大切なものであります。被災された方々にとっては、ライフラインが絶たれることは本当に辛いことです。

この度は、原発の稼働停止により、電力不足が叫ばれ、皆が節電に協力しています。

しかし、私たちは生活の利便性を求めるあまり“電気がある”“水がある”ことを、今まであたりの生活として来なかったでしょうか？ 未来の子どもたちのことを考えると、エネルギー問題については、多くの課題があると思います。まずは「スイッチを入れたら、電気が点く」のが、あたりまえと思って生活してきた私たち一人ひとりの有り様を見直していきたいと思います。

“有り難い”とは、「あたりまえ」と思っていたことが、実は「あたりまえではない」という気づきの感動を表す言葉ではないでしょうか。

(広報/東栗原地区 北村信也 記)



五反野小4年 津田夕希 作

中学生俳句コーナー

夏風が 私の頭を なでている

小野 藍

耳すませ 自然の音が どこでも

岸 彩

川の音と 草が揺れる音の こもり歌

木村 舞

笹だんご あんと思ひ出 つめこんだ

前川絵里沙

コシヒカリ 豊作願い 苗植える

饗場連太郎

笹団子 受けつがれるは 母の味

永田 博輝

千寿青葉中学校

足立区は活動記録提出 100% 継続中です

手を結ぶ地域の力「長門小学校子ども夏祭り」

夏休み最後の土曜日8月20日、「長門小学校子ども夏まつり」が開催されました。

今回で24回を迎えたこの催しは、昭和63年、同小PTA会長であり、民生・児童委員でもあった羽住爽恵さんが子どもたちのために発案。その呼びかけによって開催された「子どもまつり」が始まりです。

次年度より実行委員会が組織されました。長門小学校、同PTA、保育園、学区内の町会自治会、子ども会、敬老会、青少年委員、民生・児童委員、交通安全協会、消防団、農園ボランティア等が共催団体として参画、現在の形がつくられました。子どもたちの楽しい思い出にしたいと、模擬店・盆踊り・花火を三本柱に、ボランティアの“手づくりによるまつり”を目指してきました。今、子どもから高齢者の方まで、住民

参加による恒例行事として定着しています。

今回も800名を超える来場者により大盛会でした。学童農園で栽培された野菜を使用したカレー・焼きそばに長蛇の列ができ、一時間ほどで売り切れる人気となりました。

盆踊りでも、児童が叩く太鼓に合わせて、敬老会・女性部の踊り手に子どもたちが加わって、大変に盛り上がり、花火の打ち上げをもって“まつり”は終了となりました。

(広報/18地区 鶴田晴久 記)



私のまちの災害対策 シリーズ1 「災害時一人も見逃さない」マップづくり

民生・児童委員は、大震災や水害などの際、^(注)災害時要援護者避難支援プランに基づき、安否確認を行うことになっています。以前、高齢者や障がい者など、災害時要援護者避難支援プランの対象になっている方全ての名簿を会議で渡され、私ははたと考えました。というのは、対象者の希望調査をした時のことを思い出したからです。

初め、その調査書をいただいた時はどうしようかと考えました。まず、町会の地図が細かいところまで頭に入っていなかったため、何度も何度も見返して頭に入りました。次に要援護者名簿に基づき各家庭を訪問し、調査をしました。何日かかったか覚えていませんが、調査用紙を完成させ、区に提出しました。

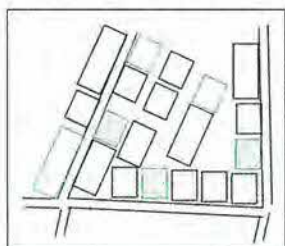
それからしばらくして、安否確認を希望する方の正式な名簿が届きました。それを見て、「災害時、瞬時に要援護者宅を安否確認しなければならない時、自分になにかあっても誰でも対応できるように

しなくてはならない」と考え、地図に要援護者宅を書き込んでおくことにしました。

活用する地図を選ぶ時、町会の地図とゼンリンの地図を見ましたが、どちらも「常に短し、たすきに長し」で上手いきません。以前国勢調査で使った地図がよいことに気付き、民生係に準備してもらい、高齢者宅はピンク、要介護者宅は青、障害者手帳保持者は黄色というように色付けをしました。この地図を毎日眺め、また一ヶ月に一度は名簿を持ち、地図を頭に描きながら、町会を順に歩いています。

しかし、実際に災害が起こったら、民生委員だけではすべての要介護者の安否確認は難しいと思います。今後、町会や行政、地域包括支援センターなど様々な組織との連携がますます重要になってくると感じています。

注「災害時要援護者避難支援プラン」とは
災害発生時、高齢者や障がい者などに対し、円滑に支援できるよう、あらかじめ「災害時要援護者」として区に登録をしていただき、本人の状況や配慮することなどを把握し、緊急連絡先や支援者を決めておくもの。
(第5地区会長 平林 治 記)



記入例

6月17日、ギャラクシティにおいて行われた民生・児童委員協議会全員研修会では、広報部会のアンケートにご協力いただきありがとうございました。

私は広報部会に入り、毎月1回の会議を本当にやっていけるのかと心配しました。しかし、一人ひとりの部会員が広報紙「さくら」を発行するにあたっ

て一生懸命に取り組んでいるのを見て、素晴らしいと思い、がんばっています。「さくら」を読んでもださっている皆様、何か良い話題がありましたら地区広報部会員にご連絡ください。これからのがんばっていきますのでよろしく願いいたします。

(広報/鹿浜地区 鈴木静江 記)

小学生掲載絵画および中学生詩歌、俳句の依頼は、第一合同から第七合同の小・中学校へ順番にお願いしています。また、皆様からの原稿も募集いたしております(原稿は未発表のものに限ります)。次号発行予定日 3月1日
なお、原稿に関しては紙面の都合がございます。事前に地区広報委員にご相談下さい。

編集後記

広報部会

栗原和子	小島千恵子	北川富美子	関根恵子	鈴木静江	梶宏次	井上みよ子	河邊セツ	粟野昌子	江川明美	校正委員	金子みどり	千葉祐子	阿部美代子	松島勝己	加藤宏一	木内信雄	鶴田晴久	編集委員	北村信也	数下奈穂美	レイアウト	秋本雅信	校正	森春枝	編集	池田信江	会計	渡邊照美	書記	川島恵美子	副部会長	宮本勝男	部会長
------	-------	-------	------	------	-----	-------	------	------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	----	-----	----	------	----	------	----	-------	------	------	-----